

情報提供等に関する 東京電力の取組

2015年1月7日

東京電力株式会社



東京電力

主なご意見等に対する取組について

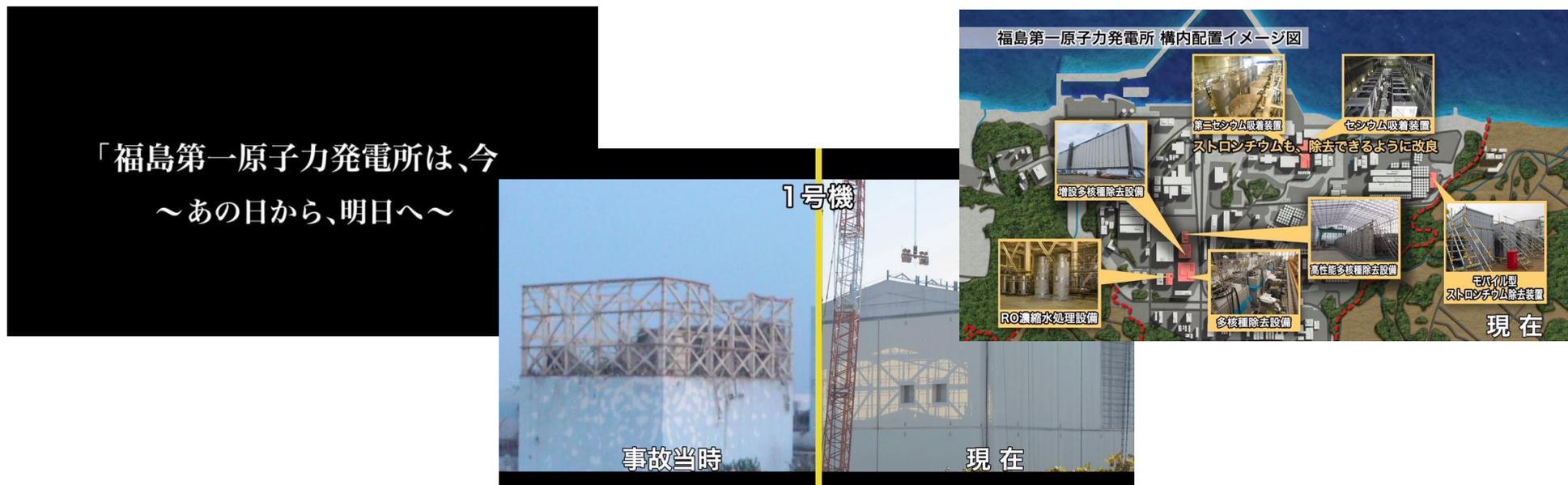
- 取組① 廃炉・汚染水対策の可視化の工夫（継続）
- 取組② 作業員のモチベーション向上にむけた取組（継続）
- 取組③ 住民の帰還につながる情報発信
- 取組④ 風評払拭に向けた新たな取組
- 参考 作業員被ばく線量について

目的やしくみ、効果等を3DやCGを用いて動画を作成。作成した動画は、ホームページなどネットを活用した情報発信ツールで公開する他、説明会などでも活用

● 今回の上映動画(2本)

○「福島第一原子力発電所は、今」～あの日から、明日へ～(※DVDを配布。説明会等でご活用ください。)

福島第一原子力発電所の廃炉作業の進捗状況について、事故当時と今を振り返りながらわかりやすくご紹介



○汚染水への取り組み ～汚染源を取り除く「トレンチ内の高濃度汚染水の除去」～(後程上映)

【主なご意見】 作業員のモチベーション、プライドが保てる環境づくりや情報発信を考えてほしい

プロのフォトグラファーの視点で、多岐にわたる廃炉作業及び作業に携わる方々の汗と矜持が伝わる写真を撮影。現場で働く作業員の方々に見て頂く取組を継続するとともに、広く社会に発信していく。

撮影写真の活用方法

ホームページに専用ページを開設

○海外も含めて社会の皆さまに広く発信

※2015年1月開設予定（日本語版）

パネル・スライドショーの展示

○作業に携わる方や多くの社員が閲覧できる
福島第一構内やJヴィレッジなど各所に展示

※2015年1月より展示

電子掲示板での掲載

○作業に携わる方々が目にするJヴィレッジ
休憩所や福島第一バス停留所などで配信

※2014年10月より配信（第5回福島評議会でご紹介）

＜パネル・ポスター（縮小版）＞



■【取組③-1】住民の帰還につながる情報発信に向けた取組

【主なご意見】 事故収束対応に関して、“住民の帰還につながるような情報”を情報紙などにより発信できないか

“廃炉・汚染水対策の進捗感が伝わる”情報の内容や提供方法について、各自治体のご要望をお伺いしながら、実施に向けて調整していく。

廃炉の進捗感が伝わる情報を住民の方にお届けするための方策(案)

<頻度・提供方法>

- 自治体のご要望をお伺いしつつ、実現可能な方法を検討・実施。
(例；自治体発行の広報紙面でのお知らせや、同広報紙発行にあわせた折り込みなど)

<内 容(例)>

- 廃炉・汚染水対策の実績、現況、今後の予定
- 前向きな情報(作業員の労働環境改善など)
- 発生したトラブルの再発防止対策

など

福島第一原子力発電所

廃炉に向けた取組状況

イメージ

第〇号

4号機使用済燃料プールからの燃料取り出しが完了しました

廃炉を進めていくため、各原子炉建屋の使用済燃料プールにある燃料を共用プール等に取り出す作業を進めています。

4号機のプール内に保管されていた燃料は、原子炉建屋上部やプール内のガレキ撤去、撤去作業を経て、平成25年11月平成26年12月22日に1,500kg取り出しました。

燃料取り出しの作業工程(4)

①原子炉建屋上部、プール内のガレキ撤去

(平成24年12月完了)

原子炉建屋上部、プール内

燃料取り出しを行うのに支障

炉建屋最上階とプール内のガ

情報のイメージ

燃料取り出し用カバーの設置

燃料取り出しに必要なクレーンや燃料取扱機を設置するカバーをガレキを撤去した後の原子炉建屋の上部に新たに設置しました。

4号機原子炉建屋



燃料取り出し用カバー

燃料の取り出し作業

使用済燃料プール内のラックに収まっている燃料を取り出し、専用の輸送容器に入れて、敷地内にある共用プール等に移送しました。取り出した燃料は共用プール等で保管します。

燃料取り出し用カバー

● 廃炉・汚染水対策の進捗感が伝わる情報の提供内容(案)

項目	情報提供内容(例)
使用済燃料プールからの燃料取り出し	4号機燃料取り出し完了 3号機燃料取り出し開始 1号機ガレキ撤去開始 など
汚染水対策	タンク内高濃度汚染水浄化によるリスク低減 凍土壁凍結開始、凍結完了、地下水流入量低下 敷地内フェーシング対策完了 など
作業員の労働環境改善	給食センター、大型休憩所設置、全面マスク省略エリア拡大、敷地内の線量低減、作業員の被ばく線量実績など
トラブルの再発防止対策	社会的関心が高いもの

※上記取組のほか、メディアを通じた情報提供の充実にむけ、以下を実施。

- ・マスコミの取材要請等への積極協力に加え、前向きな情報について取材案内
- ・廃炉・汚染水対策に関する難解な内容についてレクをするなど、記者の方への丁寧なサポート

■【取組④】風評払拭に向けた新たな取組

福島県産品や観光の風評払拭に向けた活動の輪を広げ、その活動の定着を図ることを目的に、重電メーカーや建設会社と東京電力の計11社で構成する『ふくしま応援企業ネットワーク』を平成26年11月に設立。今後、会員を順次拡大する方針。

『ふくしま応援企業ネットワーク』の概要

設立日 平成26年11月18日

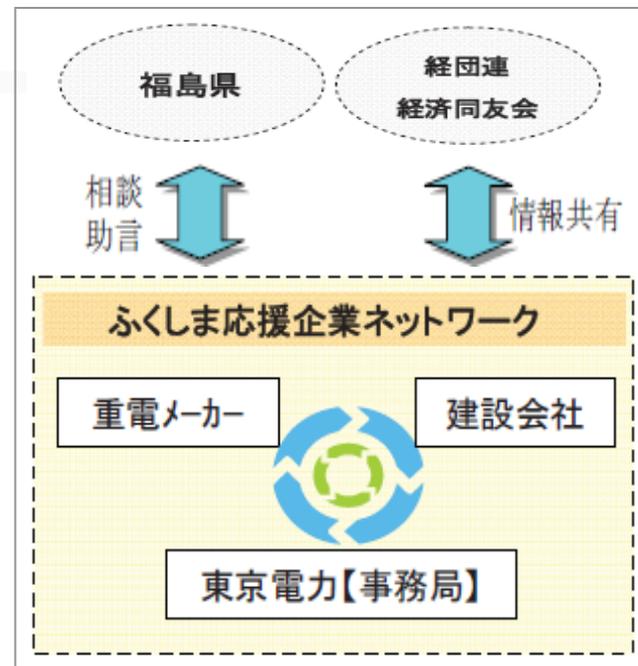
会長 (株)東芝 取締役代表執行役副社長 真崎 俊雄

目的 福島県産品の購入促進や県内観光施設等の利用促進を、会員企業の共同運営により組織的・継続的に展開することで、風評払拭に貢献すること

構成 福島で廃炉作業等に携わり地域の実情を理解されている企業様10社※と当社で発足。

活動

- 福島県産品の購入促進（社員食堂の食材利用、社内バザー等）
- 観光等の福島県内施設の利用促進
- 福島県産品の安全性についての理解促進
- 各企業が実施している活動事例の紹介と共有



活動イメージ

※会員企業10社（50音順）

- ・ 鹿島建設(株)
- ・ (株)関電工
- ・ 清水建設(株)
- ・ 大成建設(株)
- ・ (株)竹中工務店
- ・ (株)東芝
- ・ (株)日立製作所
- ・ 富士電機(株)
- ・ 三菱重工業(株)
- ・ 三菱電機(株)



設立総会(11/18)



会員企業で「日本橋ふくしま館MIDETTE」を視察、県産品を試食(11/18)

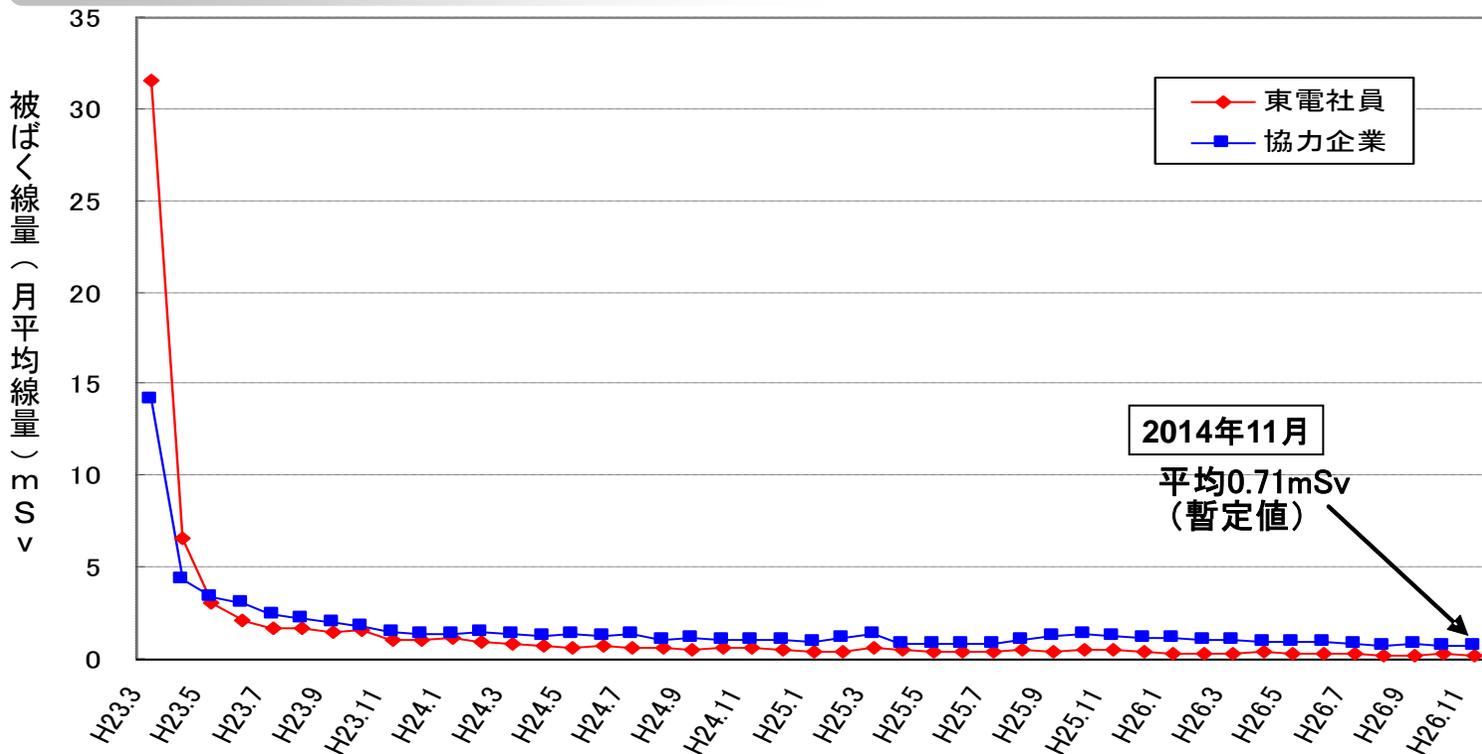
【参考】作業員被ばく線量について

作業員確保の観点からも、被ばくの状態を県民の皆さまにオープンに伝えてほしい

今後は既存資料*に加え、線量管理、作業員の確保といった観点をふまえた分かりやすい情報を、ホームページ・資料等での見せ方を工夫しつつ機会を捉えて発信していく(準備が整い次第実施)。

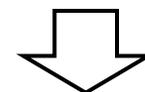
* 毎月公表している厚生労働省への報告および中長期ロードマップの進捗状況(概要版)

H23年3月以降の被ばく線量の推移



H25年度、H26年度ともに
月平均線量は **約1mSv** で
安定している。

(参考: 年間被ばく線量目安
20mSv/年 \div 1.7mSv/月)



大半の作業員の
被ばく線量は線量限度
(50mSv/年 または
100mSv/5年) に対し
大きく余裕のある状況。

※作業員の月別個別被ばく線量の推移(月平均線量[H23年3月以降の月別被ばく線量])

※平成26年12月25日の中長期ロードマップ進捗状況(概要版)より抜粋